

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

「永遠の新人（フレッシュマン）たれ」 伝えたい言葉

指導課長 堀之内 尚史

6月5日（金）に、地区フレッシュ研修の研究授業研修（教科）をさつま町の鶴田小学校と宮之城中学校で開催しました。両校とも、初任者の研修が充実するために、素晴らしい授業や会場の準備等をしてくださいました。心から感謝することでした。

本年度、本地区では、小学校33人、中学校11人の初任者が配置されています。私が新採だった頃は、大学を卒業して採用された者がほとんどでしたが、現在は年齢も経験も様々です。

私は、小学校会場に行きました。会場に集まった初任者の服装や表情を見て、うれしく思うことでした。それは、私が採用された昭和62年4月1日。当時の県教育長の瀧里忠宜先生が、初任者に向けて訓辞された「永遠の新人（フレッシュマン）たれ」に重なったからです。

先生は、様々な具体的なエピソードを交えて、次の四つのことを話されました。

- | | | | |
|----------------|---|-------------------|-------------------|
| 1 子供と共にある教師であれ | … | こんな先生になりたいという心の願い | 「心願」 |
| 2 よき市民であれ | … | 当たり前の感覚 | 「良識」 |
| 3 己に厳しい職業人であれ | … | 公私のけじめ | 「身支度」 生命ある子供を預かる者 |
| 4 学び続ける教師であれ | … | 教師の要諦 | 「学ぶ」「生きる」 人間である証 |

三十年以上経った今でも、先生のお話を鮮明に覚えているのかと問われたら、「NO」です。映像は、かすかに覚えています。ではなぜかという、瀧里先生の講話をまとめた小冊子を当時の教頭先生がプレゼントしてくださり、そのコピーをずっと持っていたからです。当時は初任研が始まったばかりで、4人に1人しか指導教員がつかず、残りは各学校の教頭先生が指導を担当されていました。厳しさと優しさを兼ね備えた教頭先生でした。

小学校の初任者33人の皆さんにも、そのコピーを渡しました。単に資料として綴じ込むか、改めて読み直して何かを感じるかは、その人次第です。学校現場に行くと、公私のけじめのない服装で、子供たちの前に立っている人を見かけます。どの職業にも、ふさわしい服装があります。

初任者の皆さんが、「教師は子供たちの一番のモデルである」ことを自覚し、感謝の心と謙虚な気持ちで日々研鑽されることを願います。

継続した安全指導への取組

管内の各学校においては、日頃から安全指導に取り組んでいただいておりますが、次の三点について再度申し上げます。

① 交通安全

今年度、管内における児童生徒の交通事故が昨年度の二倍発生（令和2年6月末現在）しています。

交通安全教室等も実施していただいておりますが、特に1年生の事故が50%となっています。「事故はいつ起こるか分からない」という認識のもと、継続した安全指導をお願いします。

② 水難事故防止

児童生徒の水難事故は、梅雨時期、夏期休業の前後及び夏期休業中に発生することが多いので、未然防止へ向けての取組をお願いします。

③ 熱中症事故防止

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用による生活が続いています。活動中の状況確認を行い、適時水分補給をするなど、適切に熱中症防止を図っていただくようお願いします。

合同計画訪問

今年度の合同計画訪問は、小学校15校、中学校9校、義務教育学校1校の計25校を予定しています。

これまで訪問させていただいた学校では、それぞれの学校教育目標の下、学校の伝統や風土を大切にされた教育が行われていました。整えられた環境美化の中、授業では、児童生徒が生き生きと発表や活動する様子、一人一人の状況を見取りながら、「分かった・できた」を実感できる学習活動に取り組んでいる先生方の姿が印象的でした。

また、学校における新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用や消毒液設置等の取組が見られました。



学校における働き方改革（業務改善）の取組について

昨年度示された「学校における業務改善アクションプラン」に基づき、二つの目標達成に向けて、各学校取組を進めていただいているところです。先日、「学校における業務改善アクションプラン第2回フォローアップ調査」の結果が公表されました。以下がその目標に対する結果です。

- ① 正規の勤務時間を超える勤務は月45時間以内
達成率 73.7%（9月～2月の平均）
- ② 教職員の80%以上が「業務改善が進んでいる」と実感
達成率 47.9%（第1回）→58.2%（第2回）

【参照 <https://www.pref.kagoshima.jp/ba03/actionplan.html>】

2年目となる本年度は、この二つの目標達成に向けて、本プランに示されている四つの重点取組を、更に実質的かつ着実に推進していくことが大切です。学校で働く教職員が、働きがいをもって教育活動を展開できる勤務環境を共に作っていきましょう。

R2 フレッシュ研修 校外研修 スタート!

北薩地区フレッシュ研修（研究授業研修）【教科】を、6月5日（金）、さつま町立鶴田小学校、宮之城中学校にて、地区内の初任者44人が参加して実施しました。新型コロナウイルス感染症防止に可能な限り配慮した中で実施できました。「校長講話での『時として、情熱は技術を上回る。』という言葉が胸に突き刺さり、元気をもらいました。」「教師になったことをゴールとせず、今後も学び続けていきたい。」「教師として一番の道具である言葉を磨いて努力していきたい。」など、授業参観や研究協議等を通して、学びや絆を深める貴重な機会となりました。



北薩地区道徳教育研修会行われる

北薩地区道徳教育研修会を、6月26日（金）、薩摩川内市立永利小学校、川内北中学校で実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、規模を縮小し、小学校部会73人、中学校部会60人の参加でした。

両校ともペアやグループによる話し合い活動やワークシートの活用による書く活動の充実、ICTの活用等の学習形態の工夫により、児童生徒が主体的に自分との関わりで考え、多様な考え、感じ方を交流する学習活動の展開がなされました。

また、先生方全員で道徳科の授業に関わるための体制づくりを構築して、「考え、議論する道徳」を目指す授業改善に取り組んでおられます。学校一体となつての研修体制がうかがえ、道徳性の向上を目指す風土が学校全体に広がっていました。この研修会を通して、道徳教育の一層の充実が図られる機会となりました。



人権学習を通して差別を考える

6月24日（水）に薩摩川内市立樋脇小学校で、北薩地区人権教育授業実践研究会に伴う、人権学習の授業を行いました。

子供の頃、学校で学ぶことができなかった祖母が、文字を読んだり書いたりできる喜びを孫に伝える資料を基に、差別や貧困について学び合いました。

学習の最後に、憲法14条で、誰もが平等で、差別されないことを学んだ児童は、現在もある差別を、未来へつなげてはいけないという思いを深めていました。



児童生徒等の健康・安全について

新型コロナウイルス感染症については、本県でも多くの感染が発生しており、国内外で長期的な対応が求められることが見込まれています。

「新しい生活様式」を意識して、感染のリスクを低減させ、安心して学習活動に取り組めるようにしましょう。「三つの密への対応」や「こまめな換気」、「咳エチケット」、「手洗い・うがい、アルコール消毒」等はもちろん、外出前の家庭での健康観察、体調の変化への気付き、冷静かつ適切な対応等が重要です。

また、気温・湿度等の気候や天気の変化は、心身への影響も大きいものです。食事や睡眠、運動のバランスを考えて生活のリズムを整えましょう。

マスクの着脱については、活動内容や人の密度等に合わせて適切に対応してください。自分の健康と安全を守るためには、まず、自らの意識を高くもつことが大切です。

良質な教育環境づくり

7月2日付け、若い目（南日本新聞）に薩摩

川内市立川内小学校6年生の「朝のボランティア活動」の記事が掲載されていました。靴箱の掃除を通して、『毎朝の靴箱の掃除、靴の砂を落とし、そろえてなおすことを心がけてほしいです。まずは私たち6年生が、みんなが使う場所を進んできれいにし続けることで、下級生に「心と体を整える大切さを伝えていきたいです。』の文に、感銘しました。

特別活動等の充実こそ、本来の魅力ある学校の姿だと考えています。6年生の皆さんの取組に敬意を表します。

編集後記

多くの行事や研修会が延期や中止になり、世の中では「リモート」による仕事や合会が行われています。人間関係が希薄化しているといわれる現代、新型コロナウイルス感染症の影響で、新しいコミュニケーションの形が、世の中をさらに変えているように感じます。しかし、変えてはいけない心と心のつながりは大切にしていきたいと思えます。